

Amir Tsarfati 氏 中東アップデート 2016年11月1日公開
トルコ、イラン、イエメン、サウジアラビア…ローマ法王

.....
イスラエルのガリラヤからおはようございます。こちらは早朝 3:15. いろいろなことが起こり過ぎて、寝てられないので、4つのことについてアップデートしたいと思います。

一つ目は、中東で現在進行中のことです。

こうして話をしている間にも、トルコの指導者エルドアンが、数百台の戦車と何千何万の兵士、機関砲、ロケット弾、それからトルコのほぼ全軍勢を、イラク国境を越えてモスルとドホークに向けて送り込んでいます。彼は、モスルの軍事行動に加われなかったことで、激怒しています。また、あちらで起こっていることに関して、彼はとても恐れてもいます。モスルは、元タスンニ派が大多数だったのですが、現在はシーア派がこの地域を占拠しています。イランが自由に出入りし、占領することを恐れ、自分が招待されなかったことに激怒しているわけです。イラン側は、エルドアンが戦闘に関わることに怒っています。そんなことが、住民 100 万人の都市に対して、選挙前に、地域に関する全てのものに対して、何の考慮もなく行われているのです。10 万人以上の子どもたちが町に閉じ込められ、何百人もの人が毎日、ISIS によって処刑されています。これらのことは、西側では無視されるか、またはモスルを解放するための軍事行為だと名目されていますが、実際にはモスル地域住民のおびただしい血が流されているのです。モスル住民たちは元タスンニ派で、彼らの多くは、シーア派の民兵が他のスンニ派地域で毎度やっているような惨殺を自分達の所でされるよりも、ISIS がそこに残留することを望んでいます。ここでは多くの人々が ISIS にすがり付いており、去らせたくないのです。実のところ、この戦闘の後をどうするのかの予定はまったくなく、それがすべての悲劇となっています。これは実に無責任で、誰も熟慮して計画を練ることもなく、後先考えず、世界の指導者にも問わないのです。彼らはとにかく、選挙のために始めたのです。そして今、思いもよらないところから問題が生じてきました。エルドアンはその中の一つです。

エルドアンは、シリアとイラクで起きていることが気に食わないのです。彼はシーア派がスンニ派の領土を乗っ取っていくのを文字通り目撃しています。シリアのアレッポでは、ロシアの援護を受けているシーア派の攻撃に対して、スンニ派が大進歩を遂げています。そしてモスルでは、シーア派はアメリカの援助を受けています。ですから、世界の超大国両方が、二つの異なる国でそれぞれシーア派を援護しているのです。エルドアンはそれが気に入らないのです。そこで、彼が行っているのは、アレッポではアレッポ住民を武装させ、モスルでは自分の戦車を乗り入れ、「おい、俺を差し置いて、パーティーはさせないぞ」と伝えているのです。トルコはどんどん中東に深入りして、エルドアンはどんな機会をも逃さないようにと動いています。これが現在目の当たりにしている中東の状況です。

次に、ずっと南下してイエメンに目を向けます。メディア各社は、アルカイダや ISIS や髭を生やした人とか、何か狂った集団・フーシ派の反逆派が何かをしているように見せかけています。これについて説明すると、人々はヒラリー・クリントンについて、素晴らしい国務長官だったとか、経験豊富だとかいいますが、「国務長官」としての彼女の務めをまとめていうと…これは皆さんも理解しておくべきことですよ！彼女は国務長官として、過去100年のアメリカの外務政策のほとんどを崩壊させたという責任があります。アメリカは、最も安定していた政権を取り除き、その代わりに、シリアでもリビアでもイエメンでもチュニジアでも、全てがテロリストと反逆派にすり替えられました。このアメリカの間違った外交政策の結果として現在残っているのは、安定を欠き、混乱した中東の姿です。ですから、私にはヒラリー・クリントンが最高の国務長官だったとか経験豊富だったようには見えません。彼女のしてきたことは悲惨なもので、彼女以外の誰にでも、もっとマシな仕事ができることでしょう。つまり、イエメンで起きていることは、他の地域で起こったのと全く同じことだと言えるでしょう。アラブの春は、イランに援護された過激な反逆派を生み出しました。そして、これらの反逆派が「フーシ派」と呼ばれます。フーシとは、以前に殺害された彼らの指導者の名（フセイン・バドルッディーン・フーシ師：2004年に殺害）から来ています。現在の指導者の名は、アブドルマリク・アル・フーシ（故フセイン師の異母弟）。彼らはイエメンのほとんどを支配しています。実際、首都サヌアは彼らの支配下にあります。

唯一、フーシ派の支配外にあるのは、アデン（イエメン最南端の都市）で、紅海につながる「アデン道路」を支配しています。ここにサウジアラビアは手先を送っています。現在サウジは非常に厳しい状況に置かれています。なぜなら、フーシ派はアデンを支配しているサウジを攻撃しているだけでなく、イランがアデンに代理の一つとしてフーシ派を送り込んでいるからです。サウジはシーア派イスラムの拡大を快く思っていない。そこでサウジは、その地域から来るフーシ派を空から攻撃し、想像をはるかに超えるような大虐殺を行っているのです。しかし、フーシ派の拡大はイエメン国内のみならず、サウジにも侵入、進出しています。サウジは巨大な広陵とした国で、全国土を支配できるだけの兵士数が足りません。サウジの資金がまだ潤沢だった頃に、アメリカから大量の高性能の武器を購入していますが、それを扱える人間がほとんどいません。そして山麓地帯の、少人数で警備しているサウジ軍基地にフーシ派が攻め込んだ時に、サウジ軍兵士が逃げ出してしまい、今現在、フーシ派はアメリカの高性能武器を所有し、サウジ国内でサウジを攻撃しています。数日前、フーシ派がサウジの最重要国際空港に向けて、射程距離 800 kmのミサイルを発射しました。実際、彼らはジッダ（サウジ中西部の紅海沿岸都市）も攻撃し、サウジは「フーシがイスラムにとって最も聖なる地メッカ（ジッダの東）を攻撃した」と非難しました。それに対してフーシ派は、「自分たちはメッカを攻撃したのではなく、ジッダを

攻撃したのだ」と言いました。

ここで要点をお話しします。サウジは自分たちがアメリカから無視されていると感じており、イエメンのフーシ派に対して無力さを痛感しています。そして、この何年もの間に自分たちがしてきたことが、全て仇になって帰ってきていると感じています。サウジが資金提供してきた「人権団体」は毎日イスラエルを攻撃しています。そして現在、彼らが資金提供してきた「人権団体」が、(サウジが) イエメンを攻撃したことによって、サウジを攻撃、ですからある種両刃の剣のようで、サウジは今フラフラです。サウジの経済は、原油価格1バレルあたり80ドル以上が前提で成り立っており、現在は1バレル50ドルを切っています。ですから、サウジが安定した政府を維持し、市民に支給(年金のようなもの:産油国の税制は国民から税金を徴収するのではなくて、国から支給する)するのに必要な資金は底をつき、市民は不満を抱き、サウジ軍兵士の中でもシーア派の者は、サウジに攻めて来たシーア派に寝返り、スンニ派は、人々が苦しんでいる間にも贅沢な暮らしを続けている政府や王族たちに対して、不満を鬱積させています。つまり、サウジは内部にも問題を抱え、地域全体ではイエメン人がどんどん支配力を増し、過去において対イエメンでサウジを援護していたエジプトからは何ももらえていません。エジプトは何十億にも上る観光産業の損失を賄うのに必死です。

そして現在私たちが見ているものは、サウジのメディアが初めて、「イスラエルはそれほど悪じゃない」「イスラエルに対して、サタンのイメージを植え付けるのはやめるべきだ」ということを伝え始めていることです。実際、現在イスラエルは文字通りサウジとカタールの唯一の味方です。想像できますか?この2国は、ハマスや他のテロ組織に資金提供し、彼らに日夜イスラエルを攻撃させていました。物事が見事に覆されているのが、興味深いところです。

3つめにお伝えしたいのは、インターネットで出回っているうわさについてです。

DNC(民主党全国委員会)がドナルド・トランプに対してダメージを与えるために出しているネタに関してです。彼らはヒラリー・クリントンのE-mail(Anthony Weiner & Huma Abedinとやりとりしたもの)がどんどん表沙汰にされていることで、ものすごい圧力を受けています。さらに、クリントン財団のこれまでの行いについても、資金がどのように流されていたか暴露されました。国務長官時代にヒラリー・クリントンがミーティングを開き、ビル・クリントンが来て話をしてお金を受け取った、それも時にはたった20分ほどだったとか、それがどう機能していたのかも明らかになってきました。今、何が起きているのかというと、DNCは福音派のクリスチャンがトランプに投票しないように、選挙の数日前にもっと悪評を流し、惑わせようとしているのです。言わせていただきますが、彼らが出しているネタはすべて古く、そのほとんどが真実でもありません。それからトランプはどれもが、

まさにどれもが、ホワイトハウスとヒラリー・クリントンよりも勝っています。オバマが8年間してきた事と同じことが繰り返されるか、それよりももっと悪くなります。オバマでさえ、クリントンほど崩壊してなかったかもしれません。おかしいことが今起こっています。

それから最後に、現在進行中の中で最も重要なことだと思いますが、これについてはきっと誰も聞いていないでしょう。

ローマ法王フランシスが、スウェーデンのマルメ（スウェーデン最南端の都市）を訪問し、新約聖書マタイの福音書の山上の垂訓（マタイ5章）に6個追加すべきだと提言しました。彼が言うには、「今の時代に沿うように追加すべきだ」（書記注：黙示録 22:18~19 を読んでください！みことばへの添削は許されていないです！）読んでみますので、これによって世界統一宗教へと導こうとするのを嗅ぎ取ってください。

- ① 「自分に対して、悪や苦痛を強いる者を心から許し、信仰を保つ者は幸いだ。」
つまり、あなたが何を信仰しようとも、あなたを傷つける者を許すなら、あなたは祝福される。…まあ、良いでしょう。次を見てください。
- ② 「社会から見捨てられ、取り残された人の目を見て、親密さを示す者は幸いだ」
これはそのまま難民のことを言っていて、「難民を世話しなさい」と、彼は全員に伝えているのです。…次はこれです。見てください。
- ③ 「全ての人の中に神を見出し、全ての人が神を見出すように努める者は幸いだ」
分かりますか？我々は誰でも、内に神がいて、私たちがすべきことはそれぞれの中に神を発見することだ。…それから次を見てください。結構衝撃的です。
- ④ 「我々の共通の家を守り、大切にする者は幸いだ。」
これは環境のことを言っています。家である環境です。地球温暖化のことを言っていて、「母なる惑星・地球を大事にする者は幸いだ」これらすべてを包括して言っているのは、「すべてはカトリック教会の元で可能であり、行われるべきだ」「なぜなら、それが神のみことばだから」…!!!
- ⑤ 「他人を助けるために、自分の財産を手放す者は幸いだ」
これはすでに、財産の分割、富の分配です。…次、最後です。
- ⑥ 「クリスチャン同士が完全に交わり合うように努め、祈る者は幸いだ」
これは宗派を超えて交流せよということで、ローマ法王が宗派の壁を取り去って、教会を統一しようとしています。

実際、彼の今回のスウェーデン訪問は、スウェーデン国内と、当然世界中のカトリックとルター派の統一が目的です。彼はクリスチャンの統一だけでなく、カトリック指揮の下での統一に向けて先陣を切りました。「最終的には、すべてがカトリックであるべきだ」と。私の You Tube メッセージ“The Rise of The One World Religion”をぜひご覧ください。この中でさらに多くの詳細についてお話ししています。

さて、中東では緊張が高まっており、中東問題は国と国ではなく、民族間、宗教間の問題だということがわかりました。まさにイエスが言われた通りで…イエスはギリシャ語の“Ethnos”という言葉を使いました…EthnosはEthnic group（民族）という意味で、現在中東では国々を分けている地図上の国境は何の意味も持っていません。つまり、今見えているのは部族間、民族間の分断で、国内闘争…シリア国内、イラク国内、リビア国内、エジプト国内、サウジ国内、イエメン国内…の闘争です。

さらに皆さんに警告しておきたいのは、以前にもお話ししましたが、しるしやブラッドムーンや、何かそういったものに関わらないようにしてください。弟子たちがイエスに、終わりの時のしるしについて聞いたとき、イエスは「戦争や戦争のうわさ」「民族間の闘争」「地震」について語られました（マタイ 24 章）。現在、巨大地震の頻度がどんどん増しているのを見ています。イタリアでは、過去 40 年の間で最も大きな地震が中心地を襲いました。それから、アメリカ北西部沿岸を大地震が襲うことも危惧されており、全ての科学者がこの考えに同意しています。しかも、マグニチュード 9 以上の記録的な規模だと言われています。これらの警告にも心を留めておくべきで、人々がこれらのことを理解しているかどうか疑問に思います。南カリフォルニアにも巨大地震が緊迫しているという警告が出されています。

と言っても、私はここで恐怖を煽っているのではなく、イエスが言われた「産みの苦しみ」は、すでにそこかしこに見られているということ伝えているのです。それに加えて、新世界宗教、世界統一宗教に導こうとするカトリック教会の信じられない先鋒・先陣、さらにアメリカ大統領選のゴタゴタによる世界的指導者の欠如…この大統領選が選挙期間内に終わるのかどうなのかもわかりません。神だけがご存知です。もしかしたら、アメリカでは何かが起こって、さらに数か月不安定なままで行くのかもしれません。この空白が世の中で世界的指導者を求める結果となり、これらを統括して、私たちクリスチャンは時と季節とを理解するのです。

さて、私はここ数日“Israel Unveiled”の撮影をしていて、イスラエル国内の様々な場所についてお話ししています。数日前は、オリーブ山の上から「携拳」について話をしました。今日はこれから、メギドの谷を見下ろしながら「反キリスト登場について」の話をします。皆さんに伝えておきたいことがあります。いろいろな人が、悪気はないのだと思いますが、「教会の携拳の日が特定できる」と思っているのです。どういうことかという、インターネットで「10/31 が世の終わりである」といううわさが出回っていて…今はアメリカではすでに 11/1、イスラエルではすでに 11/2 です。私は何に対しても、携拳の日の特定はしません。イエスが、

36 …その日、その時がいつであるかは、だれも知りません。… (マタイ 24:36)

と言われたのですから。

私たちは時期と季節はわかります。いろいろな人が、「これらの星や月や太陽を見てください」と言います。もちろん、それらは私たちが季節を知るために与えられました。時と季節を知るためです。しかし、日や時を知るためではありません。携挙が緊迫していることを知る全体の目的とは、私たちが毎日「携挙を期待しながら生きる」ということで、「その日の二日前に主に立ち返ろう」などというような先送りをしないように、私たちには日にちを特定することはできないのです。それは聖書的ではありません。多くの人が、「春の祭りはすべてその日に、イエスによって成就されたのに、なんでそんなことを言うのですか？携挙がラツパの祭りの成就なら、その日に成就されるはずなのに！」とか「どうしてその日を特定できないのですか？」と言います。そこがまさに要点なのです。ラツパの祭りだけが、唯一、日にちを特定できません。ここは、注意してください。第一コリント 15 章で、携挙について、私たちにはこう伝えられているのです。

51 **聞きなさい。私たちはあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな、眠ることになるのではなく変えられるのです。**

52 **終わりのラツパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。**

ここから二つのことがわかります。まず、一瞬のうちに起こるということです。私たちはサッと変えられ、ここからいなくなります。次に、終わりのラツパがあるということは、ラツパを吹き鳴らすプロセスがあることを意味していて、それがいつなのかは誰にもわかりません。しかし、ラツパが吹き鳴らされる過程、何の目的でそれが吹き鳴らされるかという、それは人々が次の場所へ移動することを知らせるためです。ですから、神はイスラエルが 1948 年に国家として再建されて以来ずっと、世と教会の目を引こうとされているということを、私は心底信じています。「イスラエル」と「教会」は二つのラツパで、モーセは銀のラツパを二つ作らなければなりませんでした (民数記 10:2)。1948 年、神がユダヤ人をあの地に戻されて以来、エルサレムが私たちの手に戻り、イスラエルの繁栄が元に戻り、石油やガスが発見され、これらすべてのことがエゼキエル 36~37 章、そして 38 章へと導いていて、これらすべてがラツパの音だと私は思っています。そして、「最後のラツパ」で、私たちは皆変えられます。ですから、実際の携挙は瞬時に起こります。しかし、そこまでの過程は一朝一夕には起こることではないのです。そして、ラツパの祭りとは、

一日です。だから私には、携挙がある特定の日に起こる、とは言えないのです。「携挙は最後のラッパです」とは私にも言えます。

パウロは第一コリント 15 章と第一テサロニケ 4 章の両方で「終わりのラッパ」と記しています。そして、天でラッパが吹き鳴らされる時、クリスチャンだけには聞こえるのです。世はすっかり眠っていて、私たちが携挙で挙げられた後、恐らく世では「母なる大地が何かしたのだ」というような解釈がなされるのでしょうか。実際、CERN（欧州原子核研究機構）が現在スイスで、人を一つの次元から次の次元へ送る技術の実験を行っています。彼らは私たちがいなくなった後の説明にそれを用いるのかもしれませんが。とにかく、私たちは携挙の日を特定することができません。聖書的にはそれが不可能です。そして、感謝なことに、それが不可能なのです。なぜなら、2000 年前にパウロが、自分の生きているうちに携挙が起こることを期待し、祈り、伝えながら日々を生きていたように、私も毎日を生きていきたいからです。そして言うのです。

16 …キリストにある死者が、まず初めによみがえり、

17 次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らと一緒に雲の中に一挙に引き上げられ、…（第一テサロニケ 4:16~17）

何と素晴らしく、キリストにあって祝福された希望でしょう！私たちは孤児のまま放置されないのです。そして主は、助けとなる御霊を送るだけでなく、

3 …また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。（ヨハネ 14:3）

という、実に素晴らしい約束が、私たちクリスチャンにはあります。

私たちは、この恐ろしい世を後に残します。もし、あなたが取り残されたくないのなら、今が立ち返る時です。それから、友達や家族、職場の同僚が世に取り残されてほしくないと思うなら、福音を伝えましょう。聖書預言を使うなら、恐らくそれが人々の目を惹きつける最も効果的な方法でしょう。彼らはたぶん、「聖書」には興味がなくても、世界で何が起きているのかは知りたいはずです。多くの人、ほとんどの人が「世界は一体どうなっているんだ？」と思っています。ですから、これは神の民にとっては、「全てが神のみことばの中で預言されていたことだ」と伝えるチャンスでもあるのです。聖書だけがこれを説明していて、唯一、神のみことばを信じることだけが、これらすべてのつじつまと合うのです。私たちは、暗く落ち込んだりはしておらず、祝福された希望を持つ者です。私た

ちに残された、ここでの最後の時間は、やるべきことがたくさんあります。私たちは御父の業に励みます。

アメリカに住んでいる皆さんは、これから最も緊張の高まる日々を迎えるでしょう。多くのゴミみたいな、邪悪な、間違っただ情報を聞くでしょう。皆さんは必ず投票に行って、正しい票を投じるようにと伝えます。聖書にかなった公約のために、生まれるべき命のために、保守的的最高裁のために、家族の価値のために、アメリカが根ざすために、アメリカの安全のために、アメリカの親イスラエルのために投票してください。クリントンの助言者が「イスラエルについて話をしないように」とアドバイスしたのは偶然ではありません。彼らにとって、イスラエルは問題なのです。信じられないかもしれませんが、民主党の多くが反イスラエル派です。アメリカの学校、大学で何が行われているか見てください。アラブの資金提供で成り立っている、反イスラエル派ばかりです。同様にクリントン財団もアラブからの資金提供を受け取っていて、反イスラエル活動がたくさんなされています。だから、皆さんには警告しておきます。若者や大学に行っている学生は、信仰を失うだけでなく、反イスラエル、反アメリカ思想、親イスラム思想、社会主義思想を植え付けられています。彼らがどんどん離れていっています。

そんなわけで、私は主から「毎年若者を集めてイスラエルに招き、聖書を教え、神のみことばに根差すように導いて、家庭に戻すように」と語られました。それによって、彼らの人生が変わるだけでなく、大学のキャンパスで神の御業に励むようになるのです。来年の5月の終わりに、学生のためのツアーを予定していて、主が来られるまでは毎年続けます。私は、アメリカと世界中の大学生を変えていきたいのです。なぜなら、世は子どもたちと若者を攻撃し、彼らの思想を変えて、影響を与えようとしているからです。素晴らしいクリスチャンホームに生まれても、公立の教育機関に入ったとたん、完全に洗脳されてしまうからです。ですから、これが私たちの役目です。子どもたちを神の御言葉に根付かせるだけでなく、彼らをイスラエルに招くことで、彼らの人生が変わり、聖書を事実として見ることができるようになるのです。彼らが実際に行く場所、出会う人々を見ることで、これが真実であり、実際起こっていることだと理解できるようになります。聖書が、夜お休み前にいつも親が読んでくれたただの本ではなくなるのです。どうか子どもたちをイスラエルに送れるように、もしくは誰かの子どもがイスラエルに行けるように、援助することをぜひお祈りください。

どうか、私たちのためにお祈りください。ミニストリーがどんどん大きくなっていて、世界中に広がっています。もっともっとみことばを広げたいのです。人々に聖書預言・神のみことば・旧約と新約の両方から神の全計画を教えたいのです。それから、イスラエルについても教え、クリスチャンが山羊ではなく羊となるために、この終末の時代にイスラエ

ルを支援することがどれほど重要かを伝えたいのです。皆さん、ありがとうございます。

それから、You Tube や Facebook を見ていない人のために、E-mail での配信を始めます。配信をご希望の方は、Info@beholdisrael.org までお名前と E-mail アドレスをご記入の上ご連絡ください。毎週メールが届きます。You Tube へのチャンネル登録をよろしくお願ひします。どんどんアップデートしていきます。後で見ることもできますし、他の人にも簡単にシェアできます。また、インスタグラムやウェブサイトもご覧ください。

ここ数日間は、もう少し頻繁にアップデートしていきます。選挙に向けて、いろいろなことが起こるでしょうから。残念ながら、ほとんどの情報が報道されていません。目を覚まして、天に目を向けましょう。私たちの贖いが近づいていますから。ハレルヤ！

Thank you very much. イスラエルのガリラヤより、シャローム！素晴らしい週をお過ごしください。信仰を堅く握りしめて、福音を伝えましょう。

心から、I love you！来週、ようやく休みが取れたので、家族と一緒に過ごします。そしてまた、次のプロジェクトに備えます。

Thank you again!

God bless you!

Shalom!

このメッセージは BEHOLD ISRAEL のイスラエル在住メシアニックジュー Amir Tsarfati 氏が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、BEHOLD ISRAEL (英語)、「DIVINE US」(日本語)を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by MIHO